

市町村名		伊平屋村							
令和5年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート									
事業名		伊平屋村特産品販路拡大支援事業				事業類型		■	産業振興
								□	定住促進
								□	その他
担当部課名		観光交通課	現年事業または繰越事業	■	現年事業	事業実施 (予定)年度	平成29年度 ～ 令和5年度		
				□	繰越事業				
事業内容		村の資源を活用した地域商品の売上向上を図るため、特産品を生産する事業者の販路拡大に向けたセミナーの開催並びに催事出店支援を行う。 また、村独自の物産フェアを開催し実践の場を提供する。							
先導性等に係る取組		■	自 立 性	■	政 策 間 連 携	■	離島活性化を担う人材の確保・育成		
		■	官 民 協 働	■	事業推進主体の形成	□	そ の 他		
		■ 離島地域特有の条件不利性に起因するもの							
効果発現年度		■ 当年度 □ 後年度 (年度)							
実施方法		■ 直接実施 ■ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・ 執行額 【単位:円】 (「補助金」+「市町 村負担」ベース)		予 算 の 状 況			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
				当初予算額	16,739	15,446	16,052	16,742	18,976
				増減額	▲ 1,280	▲ 6,976	▲ 3,285	0	0
				予算現額	15,459	8,470	12,767	16,742	18,976
				前年度から繰越	0	0	0	0	0
				翌年度へ繰越	0	0	0	0	0
				計(A)	15,459	8,470	12,767	16,742	18,976
		執行済額(B)		15,194	8,421	12,767	14,715	15,510	
		うち補助金充当額		12,066	6,730	10,212	11,770	12,405	
		不用額		265	49	0	2,027	3,466	
		執行率(%) (B/A)		98.3%	99.4%	100.0%	87.9%	81.7%	
		予算の状況の説明		○新型コロナウイルス感染症の第5類移行で島外からの観光客数は回復傾向にあり、これに伴い執行額も回復傾向にある。 ○R5、R6年度については、当初計画時に見込んでいた出店数に満たなかったため、物品輸送費及び県外旅費等の一部が不用となった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況		活動目標(指標)		達成状況					
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
		催事出店補助	目 標	8回	8回	8回	8回	8回	
			実 績	9回	3回	2回	9回	6回	
		「観光・物産フェア」の開催	目 標	1回	1回	1回	1回	1回	
			実 績	1回	0回	0回	1回	1回	
		セミナー(フォー ーアップ含む) の開催	目 標	6回	6回	6回	6回	6回	
			実 績	7回	4回	1回	12回	13回	
		達成 状況 説明	○観光・物産フェアにおいては、前年度と比較して来場者数は減少したものの、売上は前年比114%となった。物価高騰の影響などにより、販売価格を値上げした影響も考えられるが、アンケート結果などから購入額1万円以上の方もおり来場者の購買意欲が感じられた。 ○全体セミナーとして県外講師を招聘し村内で1回実施、その他、販路拡大において必須となる適正な食品表示への修正に向け表示の確認および作成に関する個別支援を12回実施した。						
		成果目標 (指標) 及び進捗状況		成果目標(指標)		基準値 (R1～R3年度)	R3年度	R4年度	R5年度
島内事業者と島 外の新規取引先 件数(支援対象 12事業者合計)	目 標			—	14件	8件以上	13件以上	13件以上	
	実 績			—	16件	19件	17件	17件	
進 捗 状 況 説 明	○観光需要、経済活動の回復を見据え、R1～R3の平均値を目標値として設定したが、目標を上回る17件の新規契約件数があった。テストマーケティングから契約に繋がったケースや、物産展への来場がきっかけで取引に繋がるなど一定の効果がみられた。 また新たに村内に菓子製造業者が誕生し、観光・物産フェアへ初出店した。								

取組の検証	成果目標に対する原因・要因分析	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○島外へ販路を広げ拡大していきたい事業者と、島内と催事だけで良いという考えをもつ事業者が見受けられ、販路拡大に対する意識の違いから、各年度の実績が安定しない状況がある。 ○取引が始まっても納期が守れなかったり、連絡がつかないなどのトラブルが発生したりと、人手不足や経営資源の不足により納期や数量の対応が困難になってきている。	○事業者の中には、人材不足や高齢化などの影響により積極的な販売には参加しづらい事業者もあり、全事業者の合意形成を図るのは困難な状況もある。 ○伊平屋村の商品を取り扱う「地域商社」のような存在があると効率よくかつ継続的な販路を構築できる可能性はあるが、現状、村内でその役割を担う人材や事業者がいないため継続した議論が必要である。
今後の取り組み方針		
○本事業で実施してきたことを各事業者で完結するにはまだまだ時間を要するため、大人向けのパソコン教室の開催やデジタルデバイド対策など引き続き自走化に向けた支援を行っていきたい。離島で継続的に経営を維持するためには、離島の不利性を乗り越えつつ新しい取り組みでインターネットや各種SNSを活用した通信販売やPR等の有効活用を図り安定的で効率の良い物流を検討しながら事業者へアプローチを実施していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>補助対象 事業費</td><td>補助金 充当額</td><td>市町村 負担額</td><td>補助対象 外経費</td></tr><tr><td>15,510</td><td>15,510</td><td>12,405</td><td>3,105</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	補助対象 事業費	補助金 充当額	市町村 負担額	補助対象 外経費	15,510	15,510	12,405	3,105	0
総事業費	補助対象 事業費	補助金 充当額	市町村 負担額	補助対象 外経費										
15,510	15,510	12,405	3,105	0										
<div><div>伊平屋村 15, 510千円</div><div><div>旅費 1, 408千円</div><div>県内催事6回（11事業者） 1, 408千円</div><div>（催事出展に係る旅費の8割補助）</div></div><div><div>需用費 27千円</div><div>消耗品 27千円</div></div><div><div>役務費 296千円</div><div>離島フェア出店料補助（8割）216千円 観光・物産フェア出店料補助（8割）80千円</div><div>（・出店手数料の8割補助）</div></div><div><div>委託料 7, 684千円</div><div>株式会社沖縄TLO 7, 684千円</div><div>（伊平屋村特産品販路拡大支援事業）</div></div><div><div>補助金 6, 095千円</div><div>伊平屋観光・物産フェア実行委員会6, 095千円</div><div>（「伊平屋観光・物産フェア2024」開催支援）</div></div></div>														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託先は仕様書を十分理解のうえで離島マーケティング、実技能力を勘案し随意理由により整理しているため委託先として妥当であったと考える。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算については、派遣回数が増による成果がでている一方、物品輸送費や県外旅費等一部不用額が発生していることから随時見直しが必要であると考ええる。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	負担関係については事業者に対して催事出店に係る費用の8割を補助し、2割を事業者負担としているため妥当と考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途に関しては予算要求時に財政担当の査定を受けており、また検収時において確認を行い適正であった。											